

図書室からのお知らせ

金光八尾図書室

令和4年11月30日 第276号

《2022 年を彩った人気図書のご紹介》

今年も残りわずかとなりました。皆さんにとって2022年はどうのような年になりましたか？
この1年、世間の注目を集めた人気の本をいくつかご紹介します。その時々話題を思い出す
ひとつのきっかけとして、皆さん自身の2022年を今一度振り返ってみて下さい。

1月



『世界のグルメ図鑑』
地球の歩き方

2月



『世界からバナナがなくなるまでに』
ロブ・ダン 青土社

3月



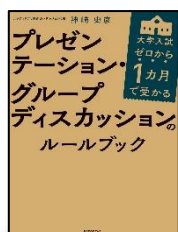
『日本の美しい花風景』
はなまっぷ 三オブックス

4月



『同志少女よ、敵を撃て』
逢坂冬馬 早川書房

5月



『プレゼンテーション・グループ
ディスカッションのルールブック』
神崎史彦 KADOKAWA

6月



『世の中は奇跡であふれている』
鳥越規央 WAVE 出版

7月



『夜に星を放つ』
窪美澄 文藝春秋

8月



『しかけ絵本の基礎知識フルタブ』
こづま美代子 大日本絵画

9月



『世界のアーティスト250人の部屋』
青幻舎

10月



『その本は』
又吉直樹・ヨシタケシンスケ ポプラ社

11月



『すずめの戸締り』
新海誠 KADOKAWA



ここに紹介した本は
すべて図書室にあります

TOPICS

♪図書室の先生より♪

* 今月は図書委員と図書室から1冊ずつ、皆さんにおすすめの本をご紹介します。

オススメ本



『教室に並んだ背表紙』

相沢佐呼 集英社

(中学1年生 図書委員)

このお話は、学校生活の中での友人関係や自分の未来に悩む中学生の女の子たちが、図書室の司書の先生に出会い、その先生の影響で段々自分と向き合っていくというお話です。

この本は連作集なのですが、どの話も同じ中学校が舞台であり、各話に共通点がいろいろあります。私がすごくいいと思ったのは、ひとつ前のお話で登場した人物が、また次のお話で視点が変わって登場するなど、それぞれの気持ちがいろんな角度からわかるというところです。登場人物を違う角度から見ると、話の展開にも納得できたり少し意外なところがあったりして、物語がさらに面白くなります。それに加えて主人公たちが全員中学生で同年代のため、共感しやすく、読んでいて楽しくなります。

この本は、長い物語を読むのがあまり好きではない人、それから小説そのものが好きではない人にもオススメできます。物語に出てくる、すごく本が好きな司書の先生の言葉から本の魅力を感じたり、主人公の女の子たちと一緒に自分に自信がついたりしてくれると嬉しいです。

今月の特集



『いつでも君のそばにいる』

小さなちいさなやさしい世界』

リト@葉っぱ切り絵 講談社

空に透かして撮影された葉っぱ切り絵。その精巧さは見る人の心を揺さぶり、想像力を喚起する物語が小さな一枚の葉っぱの上に広がっています。葉っぱ切り絵アーティストのリトさんは、もともとはサラリーマンでした。仕事がうまくいかず、失敗ばかり。悩んだリトさんでしたが、自分の偏った集中力やこだわりの強さを前向きに活かそうと、仕事を辞めていろいろなことにチャレンジ。そこで引き込まれたのが「葉っぱ切り絵」だったそうです。「いちばん熱があるうちに、まずやってみる。才能なんかよりもこの行動力のほうが何倍も大事なんだ」というリトさん。今年の10月、梅田阪急百貨店の個展でお会いしたリトさんは、学校の図書室でこの本を紹介することを伝え、「生徒さんに知ってもらえて嬉しい」と大喜びしてくださいました。この本には、全89作品が収録されています。あなたのお気に入り、ぜひ見つけてくださいね。